

■学校教育目標

澆刺・純情・夢ありの精神を持つ生徒の育成
～基礎学力・基礎体力・基礎モラル力の定着を目指して～

■指導の重点事項

- 1 「基礎学力」・「基礎体力」の定着
- 2 「基礎モラル力」の育成
- 3 「学びの意義」の確立
- 4 「伝統文化の継承」と「地域愛」の育成
- 5 「教職員の資質」の向上

■学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・ オープンスクールを年3回、延べ9日間実施。
- ・ 参観者にアンケートを行う。
- ・ 教職員の個人面談を行ったうえで、自己評価及び学校評価の実施。
- ・ 評価資料をもとに学校関係者評価を実施する。

■総合的な学校自己評価

『生徒は教師の鑑：目の前の子どもの姿が全てを物語る』を念頭に、ねらいを明確にして本質に迫れるよう教育実践をしてきた。おおむね肯定的な自己評価であった。しかし、必要な準備に時間をかけることでワークライフバランスの適正化において課題が残った。今後は、さらに指導の本質を見抜けるよう教職員の資質向上を目指していく。

■総合的な学校関係者評価

- ・ 保護者、地域と協働し、信頼される「開かれた学校づくり」を推進されているとともに、明るく働きがいのある職場環境づくりに努められている。
- ・ 教育実践にあたり、準備の時間が増え教職員の過重労働になることによる影響が心配される。
- ・ 学校運営には教師の資質向上が最も重要になってくる。

学校自己評価結果（A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった）

評価の観点	評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
学習指導	1 「教科嫌いをつくらない」魅力的な授業づくりに取り組んでいる。	B	生徒のつまずき箇所を確認しながら、視覚的に学習できるよう ICT を活用しながら指導を行っている。 生徒の主体的な学びに結びつけるよう授業改善を行っているが、探求的な課題を解決する学習までは到達できていない。 さらに日常の課題と教科を結びつける授業を目指していく。	「個に応じた指導」は理想であると思われる。実際の学校現場では多様な生徒に向き合い、個別最適な学びの実現が求められている。生徒のつまずき箇所を発見し、アドバイスすることを引き続き取り組んでいただきたい。 少人数学習において、自らの目標に向かって取り組む生徒の姿が見られた。充実感や達成感が感じ取れる学習であると考えている。
	2 「基礎学力定着」のため、教科の特性に応じた指導方法を工夫している。	B		
	3 「主体的・対話的で深い学び」につながる、授業改善に取り組んでいる。	A		
	4 生徒の個性や到達状況などを把握し、「個に応じた指導」を実践している。	B		
	5 生徒が自ら課題を見つけ、探求的な学習を取り入れている。	B		
	6 学習評価を「生徒の学習改善」や「自身の指導改善」の視点で活用できている。	B		

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
生徒指導	7	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成に努め、基礎モラル力の定着に取り組んでいる。	A	<p>毎週の生徒指導小員会で SC,SSW との連携を図り、報告・連絡・相談を行っている。</p> <p>家庭訪問、電話連絡を密にして保護者との信頼関係を築いている職員が多い。</p> <p>しかし、情報が素早く正確に共有できておらず指導が後手に回ってしまった事案もあった。</p>	<p>生徒指導において、家庭訪問や保護者との連絡を密にすることで、教員と保護者が生徒についての目標を共有することが重要である。</p> <p>学習指導、生徒指導についても教師の指導力に関係することが非常に大きい。</p> <p>教員が人間性を磨き、教師力の向上に取り組むことが求められる。</p>
	8	「優しいけれど甘くない、厳しいけれど冷たくない」姿勢で生徒と向き合っている。	A		
	9	問題行動等に対し、報告・連絡・相談を確実にし、組織的な対応に繋げている。	A		
	10	不登校生徒に対し、SC や SSW、総合教育センター等と連携するなど、状況に応じた適切な支援に取り組んでいる。	A		
	11	保護者に対して、必要な連絡や相談を迅速丁寧に行い、適切な信頼関係を築く努力をしている。	A		
道徳教育	12	様々な教育活動で、自分を見つめ、他者の考えを認めながら、共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う指導に取り組んでいる。	A	<p>ローテーション授業、相互授業参観しながらアドバイス等ができています。</p> <p>しかし、まだ理想の指導者としての姿がイメージできていない職員もいる。</p>	<p>長年、北条中学校が取り組んでこられた道徳教育の研究実践が先生方の教師力向上につながり、特別活動や人権教育、生徒指導等でも活かされていることは素晴らしい。</p>
	13	道徳科の授業において、教材・資料を十分に検討したうえで指導案を吟味し、道徳的実践力の育成に努めている。	A		
人権教育	14	自他の違いを認め共感的に理解した上で、協力してよりよく生きる姿勢を育てている。	A	<p>人権を考える機会を通して、理解は深まってはいるが、生徒の日常の行動へと結びついていない現状も少なからずある。</p>	<p>加西市でも文化が異なる人との共生社会になっている。これまで以上に多様な人権教育の理解を深める必要がある。</p>
	15	いじめ等の人権課題を理解し、共によりよい生き方について考えを深めさせている。	A		
特別活動	16	生徒会や実践部を軸とした生徒の主体性・創造的な活動を支援し、生徒主体の学校づくりの推進に取り組んでいる。	A	<p>生徒の主体的・創造的な活動とするため、教師の事前準備や起こりうるトラブルを見通す力が求められる。職員の非認知能力向上を継続していく。</p>	<p>数値化できない、意欲・協調性・忍耐力といった内面の部分を教員がいかに育成するのが、生徒の今後の社会生活では最も重要になると思われる。今後も非認知能力の育成を継続ください。</p>
	17	「道徳実践の場」「リーダー育成の場」と捉え、非認知能力の育成に努めている。	A		
進路学習	18	キャリア教育の視点を持ち、将来に夢や希望を持たせる指導に取り組んでいる。	B	<p>変化が激しい時代だからこそ、学ぶ目的や意義を意識して指導することが求められる。</p> <p>将来の生き方を見つめる指導を充実させていく。</p>	<p>引き続き保護者と連携し、生徒たちの将来を考え、個別の指導に取り組み、未来を拓く進路指導の充実を求める。</p>
	19	保護者と連携し、自らの意志と責任で生き方や進路選択ができるよう、進路・教育相談の充実努めている。	B		

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価	
健康 安全 防災教育	20	常に生徒の心身の健康状態の把握に努め、健康の保持増進を図る指導に努めている。	A	<p>避難訓練等の際には、安全防災マニュアルを再確認し安全防災に対する意識の向上に努めているが、常に意識できているかといえは、不十分である。</p> <p>生徒の安心安全な学校生活のため、職員の意識も繰り返し醸成していく必要がある。</p> <p>今年の防災学習では、避難所運営意識を育む取り組みを行う。</p>	<p>自助、共助の意識を中学生のころから育むことは非常に重要なことである。</p> <p>できれば、防災訓練の意味合いを少し広げて、難しいかもしれないが地域ぐるみで実施できる場をつくっていただきたい。</p>	
	21	常に施設・設備に危険箇所がないか気を配り、下校指導等で生徒の安全意識を高める指導に取り組んでいる。	B			
	22	自分事として危機意識を持たせ、自助・共助の精神を育む指導に取り組んでいる。	B			
	23	災害や事故等の緊急時の体制を理解し、役割分担を遂行できる準備が出来ている。	B			
総合学習	24	「総合的な学習の時間」の意義を理解し、教科指導との関連を図る取組が出来ている。	B	B	<p>教科指導の発展的な内容とも関連させて指導する必要がある。</p>	<p>教科で学んだことが、将来に役立つというつながりを深めることが重要である。</p>
特別支援 教育	25	全ての教室に特別な支援を要する生徒がいることを理解し、実態把握と特性理解に努め、合理的配慮を行っている。	B	B	<p>視覚的な支援や個別の声かけを充実させている。さらに特別支援教育の充実を図るために、教員の合理的配慮の理解を深める研修を重ね研鑽を深めていく。</p>	<p>インクルーシブ教育の学びと実践は、生徒理解及び生徒指導等のあらゆる場面で活かされるものだから、さらに研修と修養に努めていただきたい。</p>
	26	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、学級経営に努めている。	B			
部活動	27	「強いチームづくり」よりも、学年やクラスで活躍できる生徒づくりを目標として指導にあたっている。	A	A	<p>返事や挨拶、しんどいことから逃げないことを常に意識して指導している。</p> <p>全ての部活動において、達成感や成就感を得られるように取り組んでいく。</p>	<p>部活動の地域展開が進む今だからこそ、改めて学校教育活動のなかで行われる部活動のあり方について、共通理解が大切だと考える。</p>
	28	部活動の意義を理解し、生徒の自主自立活動の場として、達成感や充実感を得られる指導方法の工夫に取り組んでいる。	B			
家庭 地域連携	29	学校の情報を積極的に提供し、保護者や地域の方の学校への関心を高め、理解と協力を得られるよう努めている。	A	A	<p>学級通信、学年通信、ホームページにより情報発信を心がけている。生徒の様子を身近に感じていただきたい。</p>	<p>行事のない普段の学校生活を知るうえで学年通信等をホームページに掲載していただきたい。</p>
教職員の 資質向上	30	分掌された校務を適正かつ迅速に行うことで、学校運営に対する参画意識をもって職務に取り組んでいる。	A	B	<p>日々、校務に追われている現状がある。年々、新しく導入される取り組みにより職員は段取り良く進めようと思いがけているが時間がかかってしまう。</p> <p>個人にも職場にもワーク・ライフ・バランスの意識はあるが、できているとは言えない状況である。</p> <p>コンプライアンス意識を保持して信頼される教師、学校を継続していく。</p>	<p>学校での、教科指導・生徒指導等は教師の指導力に関係することが大きく、その教師の人間性や大人としての魅力に起因することがある。</p> <p>教師力の向上のために、特別活動での学校行事を通して若手教師は先輩教師の姿を見て学ぶことがさらに重要となってくる。</p>
	31	OJT や校内研修を活用して資質向上に努め、中学校教師として専門性を伸ばすことができている。	A			
	32	業務改善、勤務時間の適正化に努力し、「ワーク・ライフ・バランス」の確立が出来ている。	C			
	33	常にコンプライアンス意識を保持し、教育公務員として信頼されることを意識しながら、職務遂行に努めている。	A			

